

# 全国「道の駅」女性駅長会

## 活動報告

令和2年2月14日（金）

# 1. 発足および第1回会合開催

開催日時 令和2年1月27日（月）16：00～18：00  
開催場所 パソナJobHubSquare TravelHubMix  
参加人数 参加者68名  
官公庁：5名  
道の駅スタッフ：16名  
道の駅連絡会関係者：7名  
民間企業：40名



# 1. 発足および第1回会合開催

全国「道の駅」女性駅長会 発起人

道の駅「庭園の郷保内」 加藤 はと子

道の駅「くめなん」 織田 紘子

道の駅「赤来高原」 木村 和子

道の駅「ましこ」 山崎 祥子

道の駅「みのりの郷東金」 土濃塚 雅代

- 会合に参加していただいた道の駅や全国の女性駅長の道の駅には、今後、女性駅長会への参加を案内する予定。

## 2. 設立に至る経緯

### 道の駅を運営している現場で感じるジレンマ

- 他の道の駅との連携が希薄
- 各道の駅の担当者（設置者である自治体／運営者と2つ）
- 公共と民間のはざまの特殊な運営（近くに相談できる人がいない）
- ハード整備が先行し、現場運営に必要なソフトが追い付かない状況

### 女性駅長会の取組方針

- 女性のつながる力を活かした「横の連携強化」
  - 現場運営の課題・ノウハウの共有
  - 現場から相談できる体制、チーム
- 「女性目線」、「現場の経験」を活かした必要なソフトの充実
  - 現場を運営している強みを活かした実行力
  - 子育て支援策の実現（液体ミルク・小分けの紙おむつ販売）
  - 災害時の対応

# 3. 事例の紹介 ①災害対応

- 2019年台風15号、19号による被害で、道の駅みのりの郷東金の地域は、倒木などを原因とした広域な停電、断水が発生。
- 地域全域の一斉断水（28時間）以外、道の駅は、電気、水とも使用可能。
- 市の災害拠点に位置付けられていなく、防災倉庫の設備や機能はなし。

<道の駅が行った対応>

- (1) スマホ充電コーナーの開設  
(多言語による告知、周知を含む)
- (2) 災害対応・状況連絡等の共有  
(店内アナウンス・大判ポスターの掲示)
- (3) すぐに食べられるお総菜・弁当商品の製造・販売
- (4) 水道水の提供
- (5) 赤ちゃんミルクのためのお湯の無償提供 等

道の駅みのりの郷東金の対応 一例



- 道の駅スタッフも被災者。どこまで対応すべきか・続けられるか。
- 公共施設として地域から求められる災害対応。その要望に対応できるように必要な防災機能、設備（電気、水道、トイレ、各種備蓄等）



# 3. 事例の紹介 ②子育て支援

- 子育て支援の方針に合わせて、液体ミルク、紙おむつの販売を検討・開始
- 今後、若い方の来訪を増やし、気軽に遊びにきてもらうためには必要な施策と認識。

## <現場における課題>

- 仕入れルートがない。
- 仕入れに必要な最低数量が多い。
- 数多く売れる商品ではなく、割高の価格で販売せざるを得ない状況も発生。
- 道の駅で販売するのに適したサイズのものがない。



- 自治体と協力して、防災備蓄品として、ローリングストックする方策。
- 道の駅で販売するのに適した商品の構成。  
(民間企業とのコラボ、意見交換)
- 複数の道の駅が連携することで必要な仕入れ数の確保。

道の駅庭園の郷保内 販売事例



# 3. 事例紹介 ③計画と運営の乖離

- 女性駅長会に参加するメンバーは、計画段階からかかわってきた道の駅や、赤字状態から運営を引き継いだ道の駅などがある。

## <現場における課題>

- 当初の事業計画と現実が大きく乖離
- 駐車場数、トイレの数などの設計基準が、現実と乖離
- 建物の設計が運営を十分に考慮できていない（採光、販売導線等）
  - 商品陳列、販売導線の良し悪しで、売上は大きく変わる。
  - 導線上、レジが2か所必要 ⇒ スタッフが増え運営コストが増加。
  - 産品を出荷する農家が泥の付いた靴で利用するトイレが乾式のため、清掃の手間が増加 等

